

## 第8章 退職給付会計

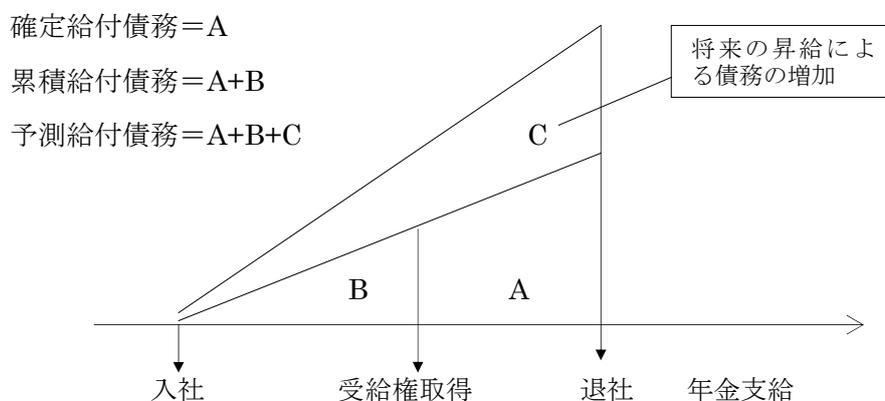
### 1. 退職給付の意義

退職給付とは、一定の期間にわたり労働を提供したこと等の事由に基づいて、退職以後に従業員に支給される給付をいう。

### 2. 退職給付債務

退職給付債務には、確定給付債務、累積給付債務、予測給付債務の3つがあり、我が国では退職給付債務の認識に予測給付債務を採用している。

- ① **確定給付債務** (Vested Benefit Obligation: VBO) とは、すでに受給権を取得している従業員<sup>1</sup>の給付額をいう。
- ② **累積給付債務** (Accumulated Benefit Obligation: ABO) とは、確定給付債務に、受給権を取得していない従業員<sup>2</sup>の給付額も含んだものをいう。
- ③ **予測給付債務** (Projected Benefit Obligation: PBO) とは、累積給付債務に、将来の予測される給与水準の増加分を加えたものをいう<sup>3</sup>のをいう。



### 2. 退職給付費用

退職給付費用は以下の算式で計算される。

$$\text{退職給付費用} = \text{勤務費用} + \text{利息費用} - \text{期待運用収益} \pm \text{過去勤務債務} \cdot \text{数理計算上の差異の費用処理額}$$

- 勤務費用：一期間の労働の対価として発生したと認められる退職給付の額で、割引計算によって計算される。
- 利息費用：利息費用 = 期首退職給付債務 × 割引率

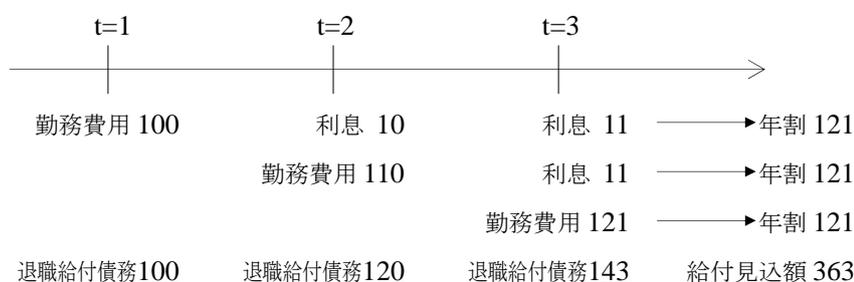
- 期待運用収益：年金資産の運用から生じると期待される収益  

$$\text{期待運用収益} = \text{期首年金資産額} \times \text{期待運用収益率}$$
- 過去勤務債務：退職給付規定の改訂等により発生する、当初の退職給付見込額との差異をいう。過去勤務債務は、平均残存勤務期間以内の一定年数にわたり規則的に費用化される。なお未認識過去勤務債務とは費用処理されていない過去勤務差異のことである。  

$$\text{過去勤務債務の償却費用} = \text{未認識過去勤務債務} \div \text{平均残存勤務期間}$$
- 数理計算上の差異：年金資産の期待運用収益と実際の運用成果との差異、退職給付債務の数理計算に用いた見積数値と実績との差異および見積数値の変更等により発生した差異をいう。なお未認識数理計算上の差異とは費用処理されていない数理計算上の差異をいう。  

$$\text{数理計算上の差異の償却費用} = \text{未認識数理計算上の差異} \div \text{平均残存勤務期間}$$

(例1) 勤続3年で退職とし、退職時の給付見込額は363円である。また割引率は10%である。なお期待運用収益、過去勤務債務および数理計算上の差異はないものとする。



1年目	(借)	退職給付費用	100	(貸)	退職給付債務	100
2年目	(借)	退職給付費用	120	(貸)	退職給付債務	120
3年目	(借)	退職給付費用	143	(貸)	退職給付債務	143

### 3. 退職給付引当金

退職給付引当金は以下の算式で計算される。

$$\text{退職給付引当金} = \text{退職給付債務} - \text{年金資産} \pm \text{未認識の過去勤務債務} \cdot \text{数理計算上の差異}$$

- 退職給付債務：退職給付費用が累積されたもの。
- 年金資産：企業年金制度に基づき退職給付に充てるために積立てられている資産をいう。

(例 2) 期首において退職給付債務、年金資産ともにゼロであるとする。(i) 当期の退職給付費用は 100 円であった。(ii) 企業年金基金に 80 円拠出した。(iii) 退職給付引当金を計上した。

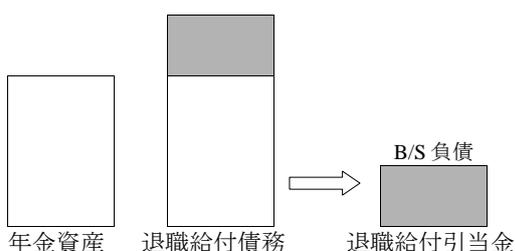
(i)	(借)	退職給付費用	100	(貸)	退職給付債務	100
(ii)	(借)	年金資産	80	(貸)	現金	80
(iii)	(借)	退職給付債務	100	(貸)	年金資産	80
					退職給付引当金	20

(例 3) 期首において退職給付債務、年金資産ともにゼロであるとする。(i) 当期の退職給付費用は 80 円であった。(ii) 企業年金基金に 100 円拠出した。(iii) 前払年金費用を計上した。

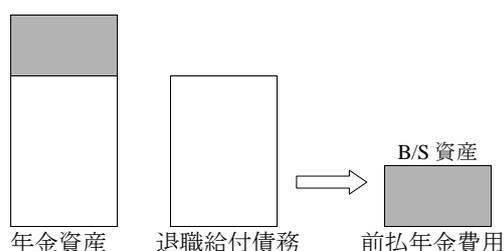
(i)	(借)	退職給付費用	80	(貸)	退職給付債務	80
(ii)	(借)	年金資産	100	(貸)	現金	100
(iii)	(借)	退職給付債務	80	(貸)	年金資産	100
		前払年金費用	20			

\* 年金資産が退職給付債務よりも少ないときは**退職給付引当金**を計上し、年金資産が退職給付債務よりも多いときは**前払年金費用**を計上する。

Case 1: 年金資産 < 退職給付債務



Case 2: 年金資産 > 退職給付債務



## [問題 8-1]

年金資産と退職給付債務に関して次のような情報が得られた。当期の退職給付に関する仕訳を行いなさい。また期末における退職給付引当金の貸借対照表計上額を計算しなさい。

## 年金資産に関する情報

期首残高	15,000 円
当期拠出	1,200 円 (現金による拠出)
期待運用収益	200 円
期末残高	16,400 円 (予定計算上の期末残高が時価に等しい)

## 退職給付債務に関する情報

期首残高	17,000 円
勤務費用	1,100 円
利息費用	400 円
期末残高	18,500 円

(借)	退職給付費用		(貸)	現金	
				退職給付引当金	

期末退職給付引当金	円
-----------	---

## [問題 8-2]

- 退職給付費用に関する記述のうち、**誤っているもの**を A~D の中から 1 つ選びなさい。
  - 勤務費用は、退職給付見込額のうち当期に発生したと認められる額を、一定の割引率および残存勤務期間に基づき割引いて計算する。
  - 利息費用は、期末の退職給付債務に割引率を乗じて計算する。
  - 期待運用収益相当額は、期首の年金資産の額に合理的に予測される収益率（期待運用収益率）を乗じて計算する。
  - 過去勤務債務および数理計算上の差異は、原則として、各期の発生額について平均残存勤務期間以内の一定の年数で按分した額を、每期費用処理しなければならない。

2. わが国の「退職給付に係る会計基準」についての次の記述のうち、**誤っているもの**を A～D の中から 1 つ選びなさい。

- A 企業年金制度に基づく退職給付の負債計上額は、外部に積立てた年金資産を控除するという考え方による。
- B 企業年金制度に基づく退職給付費用は、年金資産の期待運用収益を控除するという考え方による。
- C 退職給付債務および退職給付費用の計算方式は、予想される退職時から現在までの期間に基づき現在価値額に割引く現価方式が採用されている。
- D 退職給付の費用は、当期の負担に属すべき退職金をその支出額に基づいて認識する立場をとっている。

3. 退職年金に関する会計処理について、**正しいもの**を A～D の中から 1 つ選びなさい。

- A 年金基金へ現金拠出したとき、拠出額は会計上の費用として処理されない。
- B 年金資産の運用から生じた運用損益は、損益計算書の営業外損益または営業外費用に計上される。
- C 貸借対照表の年金負債（退職給付引当金）の額は、企業が将来支払わなければならない年金給付額の現在価値の総額を表している。
- D 年金の給付水準を引き上げると、他の事情が等しいかぎり、貸借対照表の年金負債（退職給付引当金）の額は減少する。